

事務事業評価シート

(評価対象年度：平成 30 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		指定文化財等保存継承補助事業				②事業番号		7619					
③事業類型		2. 法上(任意)事業		④開始年度		平成 30 年度		⑤終了予定年度		年度		設定なし	
⑥根拠法令等		法令		○ 条例		○ 規則		要綱		計画等		その他	
⑦実施手法		○ 直営		全部委託		一部委託		補助・負担		その他			
⑧関連予算科目コード		款		9		項		5		目		10	
⑨担当部名		教育部		⑩担当課名		生涯学習課		細目		4		会計	
												一般会計	

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 修復などの必要な文化財		① 文化財の件数		件	
②		②			
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
名称(事業の概要) 国、府指定の文化財を良好な状態で保存継承していくための、修理や防災設備設置にかかる費用の一部を補助金として支給する。		① 補助した文化財の件数		件	
		②			
		③			
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
経年劣化や、法律に規定されている防火設備の設置にかかる経費の一部を、行政が負担することで、当該文化財の適切な維持管理の実施を目的とする。		① 修繕料		円	
		②			
		③			
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
今回の補助により、法律の規定(消防法)にかなった防火設備が設置された。これにより歴史的資産の保存継承が図られた。		政策(章) 1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち			
		施策大(節) 5 まちの風土や歴史的資産が今に息づくとともに、これらを基盤とした新たな文化が花開くまちをめざします			
		施策中 1 歴史的資産の活用			
		施策小 2 文化財の活用と保護			

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標①	文化財の件数	件			1			—
対象指標②								
活動指標①	補助した文化財の件数	件			1			
活動指標②								
活動指標③								
成果指標①	修繕料	円			97,000			—
成果指標②								
成果指標③								
事業費	投入人員	人			0.11			事業費などの推移における特殊要因などの説明
	正職員	人			0.00			
	任期付職員	人			0.00			
	臨時職員	人			0.00			
	事業費	千円	0	0	892	0	0	
財源内訳	人件費(投入人員*単価)	千円			97			—
	直接事業費	千円	0	0	989	0	0	
	総事業費	千円			0			
	国庫支出金	千円			0			
	府支出金	千円			0			
	受益者負担金	千円			0			
	その他特定財源	千円			0			
	一般財源	千円	0	0	989	0	0	

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	指定文化財の維持管理にかかる負担軽減のため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	今後、指定物件の経年劣化が進むため、本事業の必要性は高まる。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	経年劣化や法律に規定される防火設備の設置は、当該文化財の保存に必須のものであるため。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	泉南市文化財保護条例の規定にあるため。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	大阪府による指導により実施している事業であり、事業の内容は適正である。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	事業の廃止は、文化財保護に大きな影響を与える。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価

A

⑤期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	適切な防火体制を整えることができた。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	内容によっては、民間の助成金などの活用も検討する必要がある。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	今のところなし。

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

B

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	補助金の支給のみであるため。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	本来的に無理な構造のため。

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	次年度は予算計上するべき案件がないが、今後も事業の必要性が見込まれ、財源の確保が必要。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ア	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止	↓ (年まで) (年から) (年から)
	<今後の展開方針> - 重点化する(集中的なコスト投入) - 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) - 効率化する(コストを下げる) - 簡素化する(規模を縮小する) - 統合する(他の事務事業と統合する)	
①改革、改善の具体案、実施年度など		—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		—